

何回読み返しても涙があふれてくる、そんな本です。中高生のみなさんはこれからいろいろな人々の「看取り」に会うことがあるでしょう。そんな時に、この本を読んでもらったら、こころの奥の深いところに、何かぐっとくるものがあると思います。

高校生のとき、戦争の歴史を学びながら「人の死とは何か？」についてずっと考えていました。無残な死の場面を学び続けながら、死の恐怖を感じました。しかし、この本には、人の死に対し、残されたもののこころが、どこかあたたかくなるような感じがします。

ぜひ、手に取ってください。

『いのちつぐ「みとりびと」1 恋ちゃんはじめの看取り おおばあちゃんの死と向きあう』

国森康弘／農山漁村文化協会／ISBN : 9784540112652